



平成29年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成28年11月10日

上場会社名 カドカワ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9468 URL <http://info.kadokawadwango.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 川上 量生
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 松原 眞樹 TEL 03-3549-6370
 四半期報告書提出予定日 平成28年11月11日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第2四半期の連結業績（平成28年4月1日～平成28年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第2四半期	99,795	6.2	4,419	26.1	4,011	△4.6	3,020	57.8
28年3月期第2四半期	93,926	—	3,505	—	4,203	—	1,914	—

(注) 包括利益 29年3月期第2四半期 2,589百万円 (△14.2%) 28年3月期第2四半期 3,016百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第2四半期	44.54	—
28年3月期第2四半期	27.22	—

平成28年3月期第2四半期における対前年同四半期増減率については、設立第1期である平成27年3月期が平成26年10月1日から平成27年3月31日までの6ヶ月間であり、第2四半期連結累計期間が存在しないため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年3月期第2四半期	233,599	106,381	44.9	1,547.68
28年3月期	201,609	104,526	51.4	1,529.43

(参考) 自己資本 29年3月期第2四半期 104,988百万円 28年3月期 103,680百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	20.00	20.00
29年3月期	—	0.00	—	—	—
29年3月期（予想）	—	—	—	20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	202,000	0.5	6,000	△34.2	5,800	△43.1	4,000	△41.6	58.98

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日（平成28年11月10日）公表いたしました「連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年3月期2Q	70,892,060株	28年3月期	70,892,060株
② 期末自己株式数	29年3月期2Q	3,055,765株	28年3月期	3,102,205株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年3月期2Q	67,815,934株	28年3月期2Q	70,315,125株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項.....	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、インターネットサービス市場の成長や、スマートフォンをはじめとする情報端末の普及を受けて多様化が続くユーザーニーズを的確に捉え、高度な技術力に裏付けされた独創的なインターネットサービスを生み出し、これをユーザーと共に育てながらリアルなイベントと融合させるなど、ユニークなITサービスを創出しております。また、出版、映像、ゲーム等の製作で積み上げてきた企画力、編集力からユニークなコンテンツを日々創出し、あらゆるメディアにマルチ展開させて収益を最大化させるノウハウを有しております。

インターネットサービスの多極化がさらに進む状況下、当社グループはコンテンツの生産性や収益性を高めるだけでなく、今後さらに成長が期待できる電子書籍や動画配信、スマートフォン向けサービス、海外などへ積極的な展開を進め、事業モデルを大胆に変革するため、高い競争力を持つコンテンツとネットワーク技術を最大限活用した新しいビジネスの創造を図っております。

当社は、グループの事業の柱が明確になったことに伴い、平成29年3月期第1四半期連結会計期間より、報告セグメントを「Webサービス」、「出版」、「映像・ゲーム」に変更しております。平成28年3月期までのセグメント区分「ポータル事業」、「ライブ事業」及び「モバイル事業」を「Webサービス」に、「書籍IP事業」及び「情報メディア事業」を「出版」に、「映像IP事業」及び「ゲーム事業」を「映像・ゲーム」に含めております。また、平成28年3月期までの「情報メディア事業」のうちの一部事業については、変更後の「その他」に含めております。

当第2四半期連結累計期間における各セグメント別の業績は、以下のとおりです。

Webサービス事業においては、平成28年4月29日、30日に「ニコニコ超会議2016」を開催し、2日間の会場総来場者数は15万2千人、ネット総来場者数は554万8千人となりました。平成28年8月26日から28日の3日間行われた世界最大級のアニソンライブ「Animelo Summer Live 2016 刻-TOKI-」には、8万1千人が集まりました。また、「ニコニコ超会議」の「町」版である「ニコニコ町会議」は、平成28年7月17日滋賀県彦根市での開催を皮切りに、同年11月13日大阪府大阪市を年度内最終開催地として、日本全国にニコニコのお祭りをお届けしています。

これらの取り組みにより、動画配信サービスの競争環境が厳しくなる中で、niconicoの平成28年9月末の発行ID数は6,006万へと増加し、様々な特典が受けられる有料の「プレミアム会員」は、256万人を維持しています。企業・団体・ユーザーが動画や生放送、記事を配信できるプラットフォーム「ニコニコチャンネル」の有料登録者数は順調に増加し、平成28年5月末に50万人を突破、同9月末には56万人に達しました。

また、ダウンロードジェイピーにおいては、嵐、Hey! Say! JUMPなど人気アーティストのニューシングルスの先行配信が、会員数減少を想定内にとどめる効果を上げました。

一方、「ニコニコ超会議2016」のコンテンツ制作費用が前を上回り、スマートフォン向け新サービス投入や、niconicoの高画質化、インフラ再構築のための費用も減益要因となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は160億88百万円（前年同四半期比5.1%減）、セグメント利益（営業利益）は17億44百万円（前年同四半期比39.0%減）となりました。

出版事業においては、紙書籍市場が緩やかに縮小する中、当社ではライトノベルが復調し、コミックスが好調を維持しました。「Re:ゼロから始める異世界生活」、「文豪ストレイドッグス」、「この素晴らしい世界に祝福を」等のメディアミックス作品の好調が続き、映画「君の名は。」関連書籍の売上が期待を上回りました。ヒット作品のジャンルが、従来強みとしていたライトノベル、コミックス、文芸以外にも広がり、製造、物流面の効率化によって返品率が低下していることも、収益力向上の要因です。

雑誌においては、販売や広告売上の減少が続く市場環境に対応するため、不採算事業からの撤退や、リソース、ノウハウを活用したインキュベーション事業の展開を進め、事業構造の転換を図っており、赤字幅が縮小しました。

さらに、電子書籍・雑誌においては、市場規模の拡大に見合ったサービス提供により、好調が続いています。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は537億44百万円（前年同四半期比11.0%増）、セグメント利益（営業利益）は38億84百万円（前年同四半期比304.2%増）となりました。

映像・ゲーム事業においては、平成28年6月に公開した映画「貞子vs伽椰子」の配給収入が貢献したほか、「ARIA The ORIGINATION」、「妖怪ウォッチ5つの物語だニャン!」、「ジョーカー・ゲーム」などのアニメ作品を中心にDVD、Blu-rayの販売が堅調に推移しました。また、アニメの動画配信など、海外でのライセンス販売ビジネスが引き続き伸張しております。

ゲームにおいては、欧米地域における「DARK SOULS III」の販売好調が続いたほか、「Bloodborne」のロイヤリティ収入、「ダンガンロンパ」シリーズのPlayStation NetworkやSTEAMストアでの販売が貢献しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は215億55百万円（前年同四半期比12.6%増）、セグメント利益（営業利益）は13億11百万円（前年同四半期比9.6%減）となりました。

その他事業には、キャラクター商品やアイドルCDのeコマース、アニメやniconicoから生まれたコンテンツの販売や著作権利用料収入、クリエイティブ分野で活躍する人材を国内外で育成するスクール運営収入などが含まれ、当第2四半期連結累計期間の売上高は99億25百万円（前年同四半期比8.6%減）、セグメント損失（営業損失）は5億87百万円（前年同四半期 営業利益71百万円）となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高997億95百万円（前年同四半期比6.2%増）、営業利益44億19百万円（前年同四半期比26.1%増）、経常利益40億11百万円（前年同四半期比4.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益30億20百万円（前年同四半期比57.8%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産は、前期末に比べて319億90百万円増加し、2,335億99百万円となりました。受取手形及び売掛金等が減少した一方で、長期借入れによる収入等により現金及び預金が増加しました。

負債は、前期末に比べて301億35百万円増加し、1,272億18百万円となりました。支払手形及び買掛金等が減少した一方で、長期借入金が増加しました。

純資産は、前期末に比べて18億54百万円増加し、1,063億81百万円となりました。配当金の支払等により資本剰余金が減少し、さらに円高により為替換算調整勘定が減少した一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が増加しました。

②キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益40億2百万円の計上等により、20億81百万円の収入（前年同期は35億24百万円の支出）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出、連結の範囲の変更を伴う子会社持分の取得による支出等により、35億15百万円の支出（前年同期は58億16百万円の支出）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入れによる収入等により、379億98百万円の収入（前年同期は68億32百万円の支出）となりました。

以上の結果、為替換算差額も含めて357億47百万円の収入となり、現金及び現金同等物の四半期末残高は、新規連結に伴う増加額を含めて879億66百万円となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年3月期の業績見通しにつきましては、当社グループを取り巻く事業環境の変化は早く、それに伴い当社の業績も短期的に大きく変動することも想定されることから、通期の業績予想のみを開示することとしております。

通期連結業績予想につきましては、平成28年5月12日付の「平成28年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」にて公表した「平成29年3月期の連結業績予想」から修正しております。詳細は、本日別途開示した「連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

（平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用）

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、この変更による当第2四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に与える影響は、軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	60,804	96,638
受取手形及び売掛金	43,629	37,854
たな卸資産	16,067	16,239
その他	12,405	11,754
貸倒引当金	△1,079	△1,097
流動資産合計	131,827	161,389
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	11,439	11,200
工具、器具及び備品（純額）	2,572	3,082
土地	19,035	20,275
その他（純額）	1,540	699
有形固定資産合計	34,587	35,257
無形固定資産		
のれん	255	902
その他	6,278	7,350
無形固定資産合計	6,534	8,253
投資その他の資産		
投資有価証券	18,347	19,588
その他	10,951	9,719
貸倒引当金	△640	△607
投資その他の資産合計	28,659	28,700
固定資産合計	69,781	72,210
資産合計	201,609	233,599

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	25,798	21,979
短期借入金	36	212
1年内返済予定の長期借入金	2,298	2,225
賞与引当金	2,447	2,939
ポイント引当金	105	76
返品引当金	8,122	6,807
株式給付引当金	70	45
役員株式給付引当金	130	63
その他	22,449	17,722
流動負債合計	61,459	52,072
固定負債		
長期借入金	27,042	66,002
退職給付に係る負債	3,341	3,338
その他	5,239	5,804
固定負債合計	35,623	75,146
負債合計	97,082	127,218
純資産の部		
株主資本		
資本金	20,625	20,625
資本剰余金	64,662	63,476
利益剰余金	22,267	25,062
自己株式	△4,896	△4,799
株主資本合計	102,659	104,364
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△496	717
繰延ヘッジ損益	—	△34
土地再評価差額金	10	10
為替換算調整勘定	1,590	△5
退職給付に係る調整累計額	△83	△64
その他の包括利益累計額合計	1,020	623
非支配株主持分	846	1,392
純資産合計	104,526	106,381
負債純資産合計	201,609	233,599

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	93,926	99,795
売上原価	66,000	70,591
売上総利益	27,926	29,203
販売費及び一般管理費	24,421	24,783
営業利益	3,505	4,419
営業外収益		
受取利息	35	45
受取配当金	212	160
持分法による投資利益	370	392
その他	224	238
営業外収益合計	841	836
営業外費用		
支払利息	49	48
寄付金	80	749
為替差損	—	399
その他	13	47
営業外費用合計	143	1,244
経常利益	4,203	4,011
特別利益		
関係会社清算益	106	—
投資有価証券売却益	—	22
その他	9	—
特別利益合計	116	22
特別損失		
投資有価証券評価損	124	—
会員権評価損	—	26
その他	0	5
特別損失合計	125	31
税金等調整前四半期純利益	4,194	4,002
法人税等	2,167	974
四半期純利益	2,026	3,028
非支配株主に帰属する四半期純利益	112	8
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,914	3,020

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
四半期純利益	2,026	3,028
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	715	1,213
繰延ヘッジ損益	—	△34
為替換算調整勘定	225	△1,445
退職給付に係る調整額	28	19
持分法適用会社に対する持分相当額	21	△193
その他の包括利益合計	989	△439
四半期包括利益	3,016	2,589
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,890	2,623
非支配株主に係る四半期包括利益	125	△34

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	4,194	4,002
減価償却費	2,048	2,196
のれん償却額	135	80
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△94	30
返品引当金の増減額 (△は減少)	△738	△1,312
賞与引当金の増減額 (△は減少)	95	492
受取利息及び受取配当金	△247	△206
持分法による投資損益 (△は益)	△370	△392
投資有価証券評価損益 (△は益)	124	—
売上債権の増減額 (△は増加)	3,812	5,728
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△2,418	△7
仕入債務の増減額 (△は減少)	△2,750	△3,707
前受金の増減額 (△は減少)	△960	△2,477
その他	△21	△1,391
小計	2,807	3,037
利息及び配当金の受取額	356	334
利息の支払額	△50	△53
事業構造改善費用の支払額	△5,118	—
法人税等の支払額	△1,520	△1,236
営業活動によるキャッシュ・フロー	△3,524	2,081
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額 (△は増加)	△3,057	139
有形固定資産の取得による支出	△1,512	△1,965
無形固定資産の取得による支出	△1,326	△1,091
投資有価証券の取得による支出	△354	△197
投資有価証券の売却による収入	3	517
連結の範囲の変更を伴う子会社持分の取得による支出	—	△1,039
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	21
その他	429	99
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,816	△3,515
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	178
長期借入れによる収入	—	50,000
長期借入金の返済による支出	△1,104	△11,157
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△1,329	△83
非支配株主からの払込みによる収入	284	420
自己株式の取得による支出	△3,946	△1
配当金の支払額	△707	△1,378
その他	△29	19
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,832	37,998
現金及び現金同等物に係る換算差額	51	△816
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△16,121	35,747
現金及び現金同等物の期首残高	59,201	52,175
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	43
現金及び現金同等物の四半期末残高	43,080	87,966

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	Webサービス	出版	映像・ゲーム				
売上高							
外部顧客への売上高	16,842	47,748	18,982	10,343	93,918	8	93,926
セグメント間の内部 売上高又は振替高	116	683	153	514	1,467	△1,467	—
計	16,959	48,432	19,135	10,858	95,385	△1,459	93,926
セグメント利益	2,859	961	1,450	71	5,342	△1,837	3,505

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント等であり、教育事業等を含んでおりません。

2. セグメント利益の調整額△1,837百万円の主な内訳は、セグメント間取引消去59百万円、各報告セグメントに配分していない全社収益847百万円、全社費用△2,744百万円であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	Webサービス	出版	映像・ゲーム				
売上高							
外部顧客への売上高	15,968	53,028	21,276	9,516	99,789	5	99,795
セグメント間の内部 売上高又は振替高	120	716	279	408	1,523	△1,523	—
計	16,088	53,744	21,555	9,925	101,312	△1,517	99,795
セグメント利益又は 損失(△)	1,744	3,884	1,311	△587	6,353	△1,933	4,419

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント等であり、教育事業等を含んでおりません。

2. セグメント利益又は損失の調整額△1,933百万円の主な内訳は、セグメント間取引消去69百万円、各報告セグメントに配分していない全社収益870百万円、全社費用△2,873百万円であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

経営統合後から事業戦略を検討してきた結果、当社グループの事業の柱が明確になったことに伴い、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントを従来の「書籍IP事業」、「情報メディア事業」、「映像IP事業」、「ポータル事業」、「ライブ事業」、「モバイル事業」、「ゲーム事業」から、「Webサービス」、「出版」、「映像・ゲーム」に変更しております。

主な変更の内容は、従来のセグメント区分「ポータル事業」、「ライブ事業」及び「モバイル事業」を変更後のセグメント区分「Webサービス」に含め、また従来のセグメント区分「書籍IP事業」及び「情報メディア事業」を変更後のセグメント区分「出版」に含め、そして従来のセグメント区分「映像IP事業」及び「ゲーム事業」を変更後のセグメント区分「映像・ゲーム」に含めております。従来のセグメント区分「情報メディア事業」のうちの一部事業につきましては、変更後の「その他」に含めております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。